

今、なぜ中高一貫教育が求められるのでしょうか



1. なぜ、中学受験なのか？保護者の思いは？

いま、岩手県の中高一貫教育が注目を集めています。昔から私立中高はありましたが、一般的には10年前頃から、県立一貫一高が、2009年4月に、併設型中高一貫校として、附属中学校を開設した時期に、そうした機運が県南地域を中心に広まってきたと言っているでしょう。

その理由の一つには、仙台圏の通学区域であり、有力私学の中高一貫校が複数あったことが挙げられます。その具体的な例として、東北学院や仙台育英、古川学園などの中高一貫校がす

でに一定の大学合格実績を挙げているのはご存知かと思いません。また10年前のほぼ同時期に、公立の仙台二華中学・高校が開校しましたが、これが「台風の目」的な存在となり大きな話題となりました。さらに輩出した卒業生の大学合格実績が輝かしい躍進を遂げて、「やはり中高一貫校は凄い！」という評判を呼んだこともありましょう。要は、高校受験で分断されない6年間の学習が確保されていること。先取り学習を含め、学力を伸ばす充実したカリキュラムへの信頼。このことで、大学受験へのアドバンテージが担保されていること。こうした点が保護者や教育関係者の期待や評価を高めたのでありましょう。これは首都圏や関西ですでに常識化されています。そして全国的にも様々な中学・高校の新たな「学校改革」が胎動を始めています。

2. まぎれもない現実を見つめましょう！

しかしながら、私立中学受験があたり前となっている首都圏や関西圏に目を転じれば、開成中高と麻布、武蔵の御三家や、新御三家(駒場東邦中高、海城中高、巣鴨中学)は著名ですが、関西圏の灘中高は、昔から私立の中高一貫校として高い評価をゆるぎないものにしてきました。お子様の中学受験を一度でも真剣にお考えになった保護者の皆さんならご承知のとおり、近年、東大・京大・医学部医学科合格者数ランキングでは、第1位の開成、2位の灘に続き、東海(愛知)、洛南(京都)、東大寺学園(奈良)、西大和学園(奈良)までがベスト5。以下、16位まで私立中高一貫校が続き、唯一の例外は、10位に国立の筑波大学附属駒場高校がありますが、50位までのうち30校が私立中高一貫校で占められている構図は、2013年~2017年の5年間のデータで明らかになっています(おおたとしまさ著「地方公立名門校、朝日新書」より)。

そこで再び、別な指標から東北、北海道に目を向けると、まぎれもない現実が見て取れます。上記と関連のある数字、中学受験率(国立・私立中学生徒数)がそれです。2017の文部科学省・学校基本調査によれば、中学生100人当たりでは、第1位の東京都が25人、以下、高知20人、奈良と京都が13人、和歌山が10人(小数点以下、切り捨て)と続きます。そして35位の北海道が3.25人、宮城が39位で2.97人。さらに東北各県では最下位グループに、41位が青森2.77人、岩手は44位で1.95人。続いて46位秋田(1.83人)、47位山形(1.44人)となっています。この数値を直視する必要があります。



3. 中学入試・受験勉強のスタートは？

「鉄緑会」という塾をネット検索すると「中高6年一貫校の生徒を対象にした東京大学受験指導専門塾」(東京・大阪)とあります。一説によると開成中学の合格証書を持参すると入塾が認められるそうですが、10年以上前にベネッセ傘下となったとあります。この「鉄緑会」の存在にも最難関大学受験の

縮図の一端が覗いていますが、お子様の将来の進路をたしかなものとするために、詳しくはどうぞ保護者の皆様がご自身でお調べになって下さい。それでは首都圏や関西の小学生たちは、いったい、いつ頃から、私立中学受験の準備を始めるのでしょうか。全国規模で学習塾を展開している日能研やサピックスなどによると、もう



40年以上も前から、一般的には小学4年生の2学期からと言われています。今では、小学3年生から名門私立中学合格をめざしているお子様も珍しくありません。頭の一番やわらかい小学校時代に、合理的かつ徹底的に勉強に取り組み、「受験脳」を鍛えるトレーニングをすることが良い、とされているのです。首都圏型中高一貫6年教育を実践している本校では「岩手県を教育先進県へ」という創立者・龍澤福美先生の燃えるような情熱が教職員の使命感を支えています。この機会に小学生の保護者の皆様、教育関係者の皆様と一緒に、いま岩手県における「私立中学受験」の意義を改めて考えてみたいと存じます。「いわてスーパーキッズ」で名選手やアスリートを続々と誕生させている岩手県。同様に私たちは「いわてスタディキッズ」の育成にも全力を尽くして参ります。盛岡中央高校附属中学の熱い挑戦にご期待下さい。

40年以上も前から、一般的には小学4年生の2学期からと言われています。今では、小学3年生から名門私立中学合格をめざしているお子様も珍しくありません。頭の一番やわらかい小学校時代に、合理的かつ徹底的に勉強に取り組み、「受験脳」を鍛えるトレーニングをすることが良い、とされているのです。首都圏型中高一貫6年教育を実践している本校では「岩手県を教育先進県へ」という創立者・龍澤福美先生の燃えるような情熱が教職員の使命感を支えています。この機会に小学生の保護者の皆様、教育関係者の皆様と一緒に、いま岩手県における「私立中学受験」の意義を改めて考えてみたいと存じます。「いわてスーパーキッズ」で名選手やアスリートを続々と誕生させている岩手県。同様に私たちは「いわてスタディキッズ」の育成にも全力を尽くして参ります。盛岡中央高校附属中学の熱い挑戦にご期待下さい。

(CHUO入試広報課 2019. 10.11発行)

最難関大への合格を目指す附中のチャレンジ ~最近のTopics~



東京大学のホームページ上に「期待する学生像」として次のような一文があります。「入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。」

本校では、このようなアドミッションポリシーに深く共感し、自ら学び続ける力、広い視野を持った人間の育成を目指しています。そのような視点に立った最近の取組について紹介します。

トモノカイ「My勉強法プログラム」



9月28日(土)に、(株)トモノカイと連携した「難関大生出張メンタープログラム」を実施しました。東大医学部、東大教育学部、東大文III類、早稲田大、慶應義塾大学から学生6名が来校し、「自学力」を高めるためのノートの取り方や暗記法など、現役大学生のリアルな声を中高生に語り届けてくれました。

〈生徒の声〉

- 今日はノートの取り方について勉強しましたが、いつも自分がいいと思ってとっているノートでも、難関大生さんのノートの見本を見ると足りなかったことがわかりました。
- 勉強をとにかくするのがいいと思っていたけれど、ノートの取り方や暗記法
- など「仕方」が大事だと思いました。これから自分に活かし、自分の夢をかなえられるように頑張りたいと思いました。
- ノートを客観的にとらえ、見直すいい機会になった。他の人の技術を自分に取り入れて成績を上げていきたい。

並木中等教育学校校長中島博司先生をお招きしての講演



9月21日に、並木中等教育学校の中島博司校長先生をお招きして、PTA講演会を行いました。並木中等学校は、今年開校12年目を迎える茨城県初の公立中高一貫校です。

4年前からICT教育、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、国際教育などのフィールドで様々な活動を行うとともに、学校をあげてアクティブラーニングを推進する中で、多くの東大合格者を出し続けるなどの高い実績をあげています。中島先生は並木のアクティブラーニングの理念として、学齢や教科のボーダーを取り払った学び、

「論理力」(日本語の4技能)の育成、他者へのリスペクトなどをあげられ、その中で、「視野の狭い受験勉強」を越えた、未来を担う人間に求められる能力を培うというポリシーで学校改革を推進しています。これは本校が目指す学びの基本的理念と一致する部分も多く、今後の本校の教育活動を考える良いきっかけになりました。今後とも、私たちはチャレンジャーとして先駆的な学校と連携しつつ、岩手のフロントランナーとしての自覚を持って、より質の高い教育の推進に努めていきたいと考えております。

